

緩やかな減速が続く米景気

ポイント① 民間需要が減速

7月下旬から8月初めにかけて発表された米国の経済指標は、全体的に見て景気の緩やかな減速が続いていることを示す内容でした。

7月26日発表の4-6月期の実質GDP（国内総生産）は、前期比の伸びを1年当りに換算した値で+2.1%と、事前の市場予想（+1.8%程度）をやや上回りました。しかし、図1が示すように昨年末から今年初めに生じた政府機関の一部閉鎖の反動で政府支出が伸びたことの影響が大きいようです。政府支出を除いた民間需要は、1%台前半の伸びに留まりました。

ポイント② 労働投入時間が鈍化

8月1日発表の7月の米ISM（サプライマネジメント協会）製造業景況感指数は4ヵ月連続の低下となり、2016年8月以来の低水準となりました。

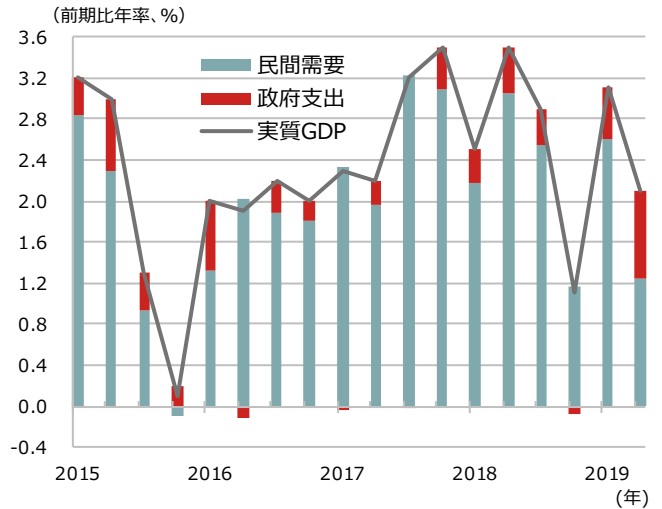
8月2日発表の7月の米雇用統計では非農業部門の雇用者数は前月比16.4万人増と概ね事前の市場予想通りであり、堅調な伸びが続いたと言えます。ただ、雇用者数に平均労働時間を掛け合わせた総労働投入時間は、図2が示すように前年同月比で鈍化傾向にあり、労働需要も緩やかに減速しているようです。

ポイント③ 追加利下げの模索

こうした点では、7月30、31日のFOMC（米連邦公開市場委員会）での0.25%利下げも納得できます。ただ、次回9月17、18日やそれ以降のFOMCにおいて、追加利下げが必要なほど景気が減速しているかについては、まだはっきりしていません。トランプ大統領が約3,000億米ドルの中国製品への追加関税を発表したことなどにより、保護主義による不透明感が実際の経済活動にどの程度影響するのかを今後発表される経済指標で確認しながら、追加利下げの可能性を探る動きが続くものと見られます。

図1：米国の実質GDP、民間需要、政府支出

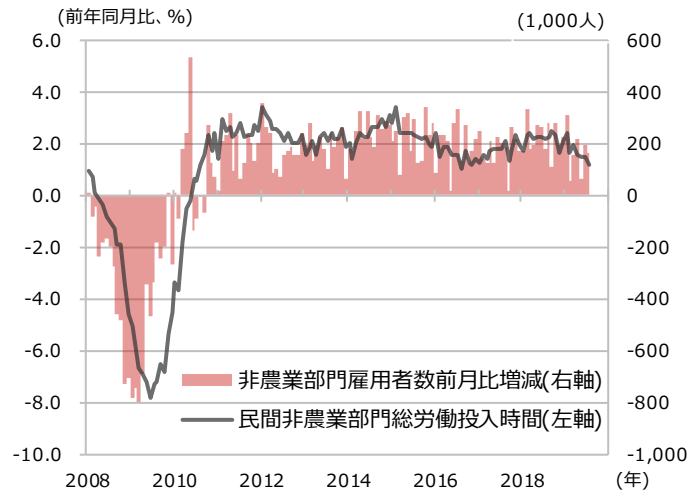
期間：2015年1-3月期～2019年4-6月期、四半期



(出所) 米商務省経済分析局統計より野村アセットマネジメント作成

図2：米国の雇用者数と総労働投入時間

期間：2008年1月～2019年7月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

8月15日 米小売売上高（7月）
8月21日 7月30、31日開催FOMC議事録公表

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目録見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。